

## 研究のねらい

学級活動における話し合い活動を充実させることで、自ら考え、判断し、問題解決できる生徒の育成を図る。

## 主題設定の理由

- (1) 人の話をしっかりと聞ける生徒が多いが、自分の考えを発表することが苦手である。
- (2) 学校行事や部活動には熱心に取り組めるが、主体的に行動したり学習したりすることが苦手である。

## 研究の仮説

- (1) 計画委員会へ教師が適切に関わることで、議題の必要性だけでなく、自分の考えをもち、判断することができるだろう。
- (2) 話合い活動を通し、学級として結論を一つにまとめたり、お互いの意見の折り合いをつけたりする体験を通して、問題解決の方法を知ることができるだろう。
- (3) 話合い活動を通して身に付いた力は、生徒会活動や他の教科でも効果的に発揮され、様々な問題に積極的に対応できるようになるだろう。

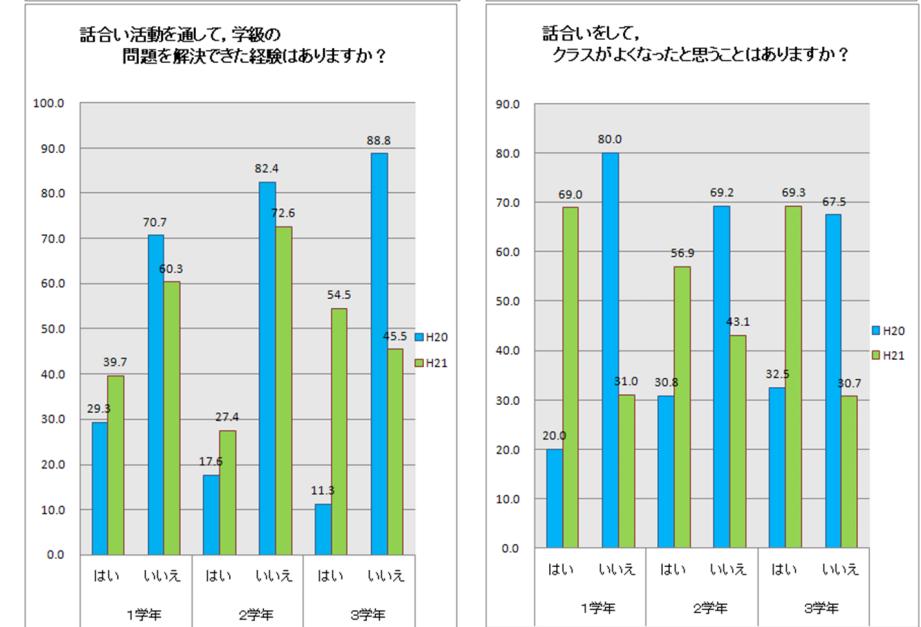
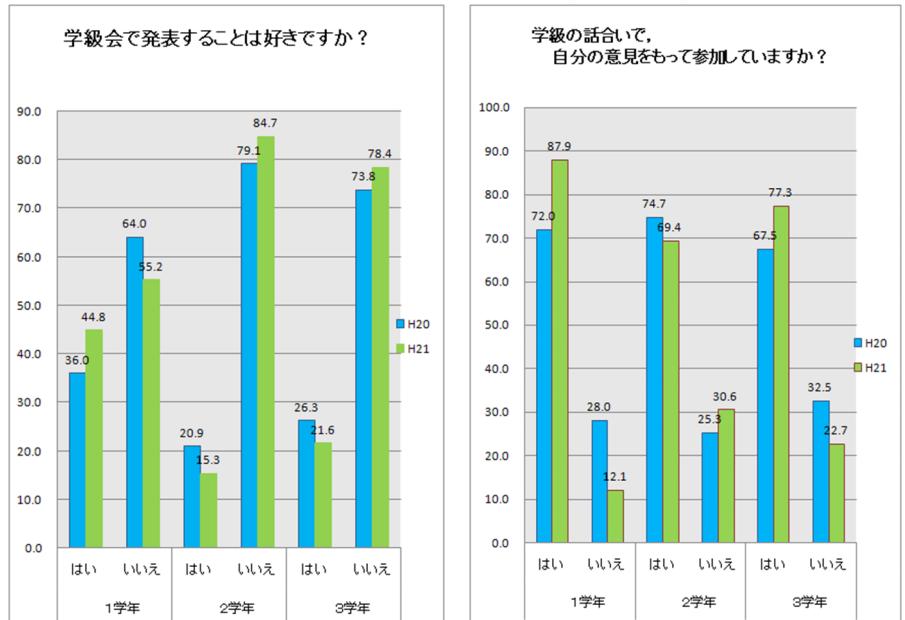
## 主題に迫るための手立て

- (1) 計画委員会の活動の時間を確保したり、議題選択等の視点を示したカードを作成したりする。
- (2) 話合い活動のコーナーや意見箱を設置する。
- (3) 計画委員や議長団を輪番制で担当し、より多くの生徒が体験できるようにする。
- (4) 問題の収集から実践のなかで生徒のよさを十分に認め、学級の問題を解決できた経験を数多くさせる。
- (5) 週時程のなかに研究推進委員会を位置づける。
- (6) ワークショップ型の校内研修を通し、全職員が共通の課題に取り組む。

## 成 果

※ただし、1年生の結果については、H20はH21の4月に  
H21はH21の10月にアンケートを実施

- (1) 話合い活動を通して問題解決の方法を知ることができた。また、学級の問題が改善されたと感じる生徒が増えた。
- (2) 発達段階の違いはあるものの、自分の考えをもとに判断することができるようになった。
- (3) 自信をもって発表できる生徒が増えた。



## 今後の課題

- (1) 生活のなかで生徒自身が問題意識をもちらながら生活させる工夫
- (2) 生徒が創意工夫することのできる活動の充実
- (3) 見通しをもった話し合い活動の実施

平成20・21年度

行方教育部会指定

## 自ら考え、判断し、問題解決できる生徒の育成

- 学級活動における話し合い活動と生徒会活動を通して -

## 研究概要

期日 平成21年11月26日(木)

講師 行方市教育委員会学校教育課

指導室長 小野口和章先生



行方市立麻生中学校